

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月1日 公開授業 I
児 童 男子11名 女子12名 計23名
指導者 西 山 寿 朗

- 1 単元名 段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう
～ 大野小オリジナル写真展をひらこう ～
- 2 教材名 「アップとルーズで伝える」 中谷 日出（光村図書）
- 3 単元について

<目標> 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。〔読 イ〕

<教材の特性と論理的な読み>

筆者の説明文の工夫を参考に、写真展をひらく学習を行う。そのために、写真を使った説明や段落相互の関係に気を付けながら、「アップ」と「ルーズ」の特徴を読み進める。

<単元を貫く言語活動>

日常生活の写真から「アップ」と「ルーズ」の写真を選択し、段落同士の関係を考えて写真の特徴を友達に紹介する。

<論理的な読みのための知識・技能>

- 段落と段落の対比関係を読む。
- 言葉や事柄を説明している文を見付ける。

<児童の実態（説明文に関して）>

児童は、1学期に説明文を読み、事実と考えを読み分け、段落どうしの関係を考える学習をおこなってきた。文章を読み深めたり自分の考えを書きまとめたりする活動について個人差が見られる。また、段落の構成を意識しながら読んだり、段落相互の関係に気を付けながら文章を書いたりすることができる児童は多くない。

<全員が「わかる」のための手立て>

単位時間の前半で、段落構成と写真と対応した部分に着目しながら読み、共通の土台に乗せる。後半では、その学習を基に、教材文を手がかりとしながら、様々な写真の特徴や写真をとった人の意図について考え、写真展をひらき、段落相互の関係や説明の仕方を工夫して写真を紹介する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「アップとルーズで伝える」の教材に興味をもって、進んで読もうとしている。	中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。(1) C イ	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。(1) イ (ク)

5 単元の指導計画

次	時	学習活動	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
1	1	・学習課題を確認する。 ・「アップ」と「ルーズ」について知る。	・「アップ」と「ルーズ」の写真を提示し、本単元のイメージ化を図る。(焦点化) ・教師例を提示し、ゴールを明確にする。(焦点化)	【関】「アップ」と「ルーズ」の写真に興味をもって見比べている。
	2	・本単元の学習計画を立てる。	・本時の学習計画を教室に掲示する。(視覚化)	【関】本教材に興味をもって読んでいる。 【言】新出漢字や新しく出た言葉を理解している。
2	3	・「アップ」の写真の特徴についてまとめる。	・教材文で「アップ」について書いてある文章に青線を引く。(視覚化) ・「アップ」の写真を使い、特徴をまとめる。(視覚化)	【読】「アップ」の写真の特徴に注目しながら読むことができる。 【書】「アップ」の特徴をまとめることができる。
	4	・「ルーズ」の写真の特徴についてまとめる。	・教材文で「ルーズ」について書いてある文章に赤線を引く。(視覚化) ・「ルーズ」の写真を使い、特徴をまとめる。(視覚化)	【読】「ルーズ」の写真の特徴に注目しながら読むことができる。 【書】「ルーズ」の特徴をまとめることができる。
	5	・筆者がアップとルーズのちがいを説明する時本時の特徴を見付ける。	・文末の言葉に注目させる。(視覚化) ・「アップ」と「ルーズ」の写真を対比させながら違いに気付かせる。(視覚化)	【読】段落の対比関係を意識しながら読むことができる。 【読】対比される文末表現を見付けることができる。
	6	・筆者のまとめ方の工夫を見付ける。	・接続語や文末の言葉に注目させる。(視覚化) ・段落構成図にまとめる。	【読】筆者の説明の工夫に気を付けながら、読むことができる。
3	7	・1組の「アップ」と「ルーズ」の写真を選び、説明する文章を書く。	・5組の写真を準備し、児童に選択させる。(共有化) ・書き方の型を用意し、作業が難しい児童の手がかりとする。(共有化)	【書】自分が選んだ写真の特徴を筆者の説明の仕方を参考にしながら書くことができる。
	8	・選んだ写真を友達に紹介し、感想を交流する。 ・学習のまとめをする。	・お互いの説明の仕方のよさを交流させる。(共有化) ・本単元で学んだことを確認し、次単元のリーフレットづくりにつなげる。(焦点化)	【関】友達の説明の仕方のよさを見付け、進んで交流している。 【関】次時の学習に進んで取り組もうとしている。



6 本時の指導

(1) 本時の目標

段落相互の関係を考えながら読み、筆者のちがいを説明する時の工夫を見付けることができる。

(2) 論理的な読みの指導の手立て

対比する2つの段落を「接続語」や「文末表現」に着目し、比べながら読むことを共通の土台とし、学んだことを活かして、対比している文章を書く。

(3) 具体の評価規準

A	B	Bに至らせるための手立て
筆者がアップとルーズのちがいを説明する時の工夫を見つけ、活用することができる。	筆者がアップとルーズのちがいを説明する時の工夫を見付けることができる。	教材文と写真、段落と段落を読み比べながら、書き方の違いを見付けることができる。

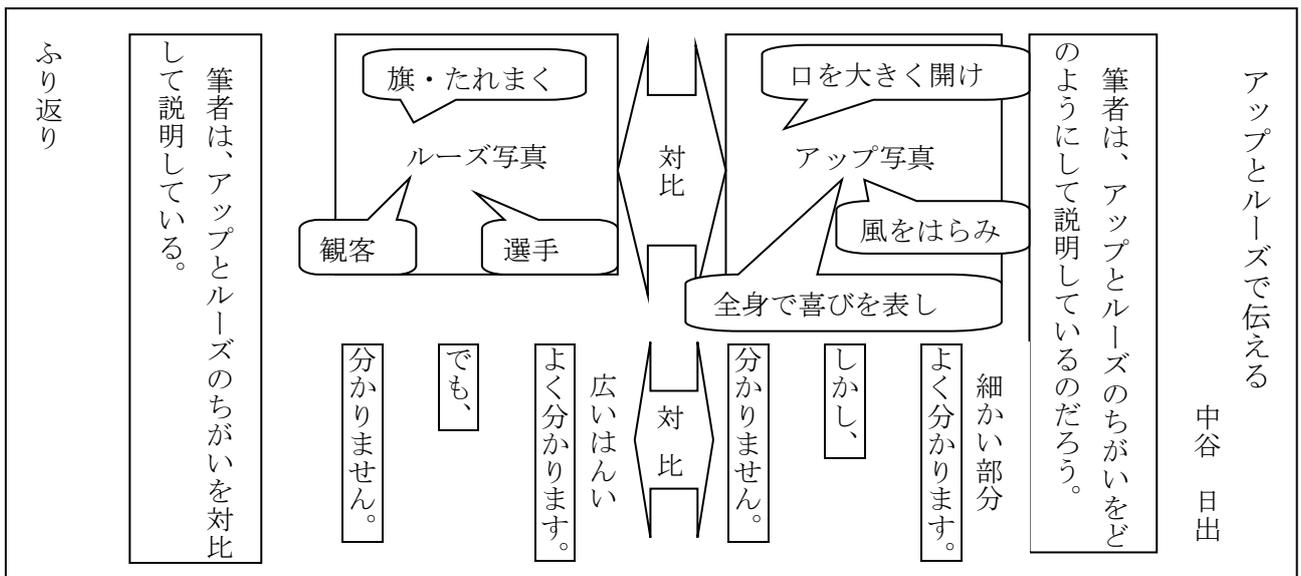
(4) 本時の展開（焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎）

段階	学 習 活 動	指導の工夫（◎評価）	個別の配慮
つ か む 5 分	1 前時の想起	☆「伝わること」「伝わらないこと」を見付けることを確認する。	・掲示物で確認させる。
	2 課題の把握 (1) 課題の確認		
	筆者は、アップとルーズのちがいをどのようにして説明しているのだろう。		
	(2) P 3 4～3 5の音読	☆「アップ」「ルーズ」の役割読みをする。	・すぐ評価し認める。
ま な ぶ 20 分	3 課題解決 (1) アップとルーズのちがいを確認する。	☆「アップ」「ルーズ」のちがいが書いてある段落に着目させる。 □前時までのノートや掲示を手がかりにちがいを探す。	・ちがいを見つけられない児童には、掲示物に注目させて確認させる。
	(2) 説明の特徴を見つける。		
	(3) 説明の特徴をまとめる。	☆接続語や文末表現に着目させ、第4段落と第5段落を対比させながら読む。	・うまく対比させることができない児童には、指でなぞりながら対比させる。
	筆者は、アップとルーズのちがいを対比して説明している。		
	(4) ワークシートにまとめる。	□書き方の型を提示する。 ◎アップとルーズのちがいを説明する時の特徴をまとめることができる。	・書き始めに戸惑う児童には、書き方の型を提示する。 ・書き終わった児童は、ペアで交流を始める。

いかす 15分	4 まとめを活用する。 (1) ワークシートを交流する。 (2) 教材文で確認する。	◇友だちの書き方のよさを見付けて感想を交流する。 □写真と教材文を見比べながら、言葉の確認をする。	・写真と教材文がうまく組み合わない児童には、板書の写真を指示棒で照らし合わせる。
まとめる 5分	5 ふり返る 6 次時の予告	☆ノートに、わかったことや考えたこと、友だちのことを書く。 ◎わかったことを書くことができる。 ◇ふり返りを友だちと交流する。 ・次時の見通しをもたせる。	・ふりかえりを速く書き終わった児童は、ペアでふり返りを交流させる。

<資料>

○板書計画



○並行読書 ブックリスト

中をそうぞうしてみよ

アリからみると

視覚ミステリーえほん

このよで いちばん はやいのは